



リオは毎朝、学校に行くのがとてもつらくて、お腹が痛くなってしましました。休み時間、友だちと話すのも苦手で、ひとりでいることが多かったのです。その日はまた、心が重くなっていました。



リオは友だちのグループの話についていけず、休み時間がつらく感じていました。心の中で『自分は違う』という気持ちが強まり、どんどん孤独を感じていました。そんな自分に戸惑いながらも、リオは小さな光を見つけました

。



光の精はリオに言いました。「君の弱さは君だけの宝物。自分の心を大切にして、無理しないでいいんだよ」。リオはその言葉に励まされて、少しだけ自分の気持ちを認めてみることにしました。



次の日、朝はまだつらかったけれど、リオは学校の保健室へ行くことにしました。自分の体調を大切にするための小さな選択です。心にはまだ少し不安もありましたが、光の精がそばにいてくれました。



保健室の先生に自分の気持ちを書いたメモを渡すこともできました。リオは自分の声をほんの少しだけ出してみて、心が少し軽くなったように感じました。小さな勇気が大きな変化の第一歩です。



帰り道、リオは親に体調のことだけを伝える決心をしました。話すのは緊張したけれど、少しずつ自分の気持ちを伝えることができて嬉しかったのです。心が少しずつ強くなっていきました

。



その夜、リオは好きな音楽を聴きながら、温かい飲み物をゆっくり飲みました。心と体にやさしい時間を持つことで、少しずつ夜の不安が和らいでいきました。光の精がそっとそばにいてくれました。



リオはまだ毎日を完璧に過ごせるわけではないけれど、自分の弱さを受け入れながら進むことを決めました。少しづつ体も心も回復し、光の精が彼の中で大きな輝きに変わり始めたのです。



リオの心に育ったその光は、彼にとつての新しい力になりました。もう一人じゃない、新しい希望の扉が少しづつ開いていきます。また明日を迎える勇気が、リオに生まれました。



リオは大切なことを知りました。自分の弱さも不安も、心の中の光へ変えられること。どんな日も、自分のペースで歩んでいけばいい。新しい物語は、ここから始まるのです。